

部活動地域移行に関するアンケート調査の結果について（概要）

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本市の児童生徒・教職員及び、その中学校保護者の部活動に係る意識や実態、今後の部活動の在り方に対する考え等を把握し、本市の部活動地域移行における基礎資料とするため。

(2) 調査の実施時期

令和6年9月18日(水)～令和6年10月4日(金)

(3) 調査対象

- ・米原市立中学校生徒（1～3年生）
- ・米原市立小学校児童（4～6年生）
- ・米原市立中学校教職員
- ・米原市立小学校教職員
- ・米原市立中学校生徒の保護者

(4) 調査方法

Microsoft Forms による調査

(5) 回答者数

①	中学校生徒	877名
②	小学校児童	899名
③	中学校教職員	65名
④	小学校教職員	100名
⑤	中学校保護者	387名

2. 結果概要

(1) 中学校生徒の部活動に関する意識

中学生の部活動の加入状況は、85%以上が部活動に加入しており、また、80%以上の生徒が希望する部活動に所属をしている。部活動の満足度として、「十分満足している」「満足している」と回答している生徒が、83%と概ね現在の部活動が充実した活動になっていることがうかがえる。

しかし、自分が希望する種目が自校にない生徒も部活動に所属している生徒の中に、10%近くおり、本来ならバドミントンやバスケットボールなどの活動に取り組みたい生徒が見られた。また、学校の部活動以外のスポーツや芸術活動に全体の25%の生徒が所属している。野球やサッカー、卓球、バレーボール、バスケットボールなどのスポーツ活動やピアノ、書道などの文化活動に取り組んでいる生徒が多い。これらの活動に参加している生徒は、主体的に参加し、自分の能力を向上させたいと考えている生徒が多くみられる。

部活動の地域移行については、約45%の生徒が分からないと回答していることや自由記述の中でも地域移行について説明して欲しいと回答されている。地域移行後の活動がどのような形で進むのか分からない中での回答のため、活動のイメージがつかない生徒が多かった。その中でも、地域クラブに参加したいという生徒は、「自分が希望する競技に参加できる」「専門的な指導を受けたい」という回答が多く、現状の部活動に満足できない生徒については、活動の幅が広がる地域クラブに参加したいと考えていると推察できる。参加したくないという生徒については、勉強やその他の趣味に時間を使いたいと回答している生徒が多い。また、練習場所までの送迎や費用面など保護者への負担を心配する回答も多くあった。

(2) 小学校児童の部活動に関する意識

地域でスポーツ活動や文化活動に取り組んでいる児童は、約75%と多くの児童が様々なスポーツ、文化活動に取り組んでいる。特に水泳やサッカー、野球、ダンスなどのスポーツ活動やピアノ、書道、美術などの文化活動に取り組んでいる児童が多い。

中学校入学後の活動については、アンケートの対象を4年生から6年生だったこともあり、まだ考えていないという児童が約30%はいたものの、部活動に参加したいと考えている児童は、約60%であった。自由記述の中でも、現状の部活動に入部したいという意見も多く、小学校児童の部活動への入部希望が多いことがうかがえる。

部活動の地域移行については、中学校と同様に、地域移行後の活動のイメージがつかない児童が多く、地域クラブでの活動への疑問や不安について、特になしという回答が多かった。自由記述では、活動種目への要望についての意見が多く見られた。その理由としては、進学する中学校に入部したい部活動が設置されていないことから、様々な種類の競技から選べるようにして欲しいという回答が多かった。また、活動場所までの移動手段等への不安についての意見も多く寄せられた。

(3) 中学校教職員の部活動に関する意識

現在の部活動について、全ての教職員が、「課題がある」と回答をしている。その理由としては、休日を含め部活動指導に長い時間を割かなければならないため、休養がとれなかったり、授業準備などの業務に十分な時間が取れなかったりすることが挙げられる。また、自身が経験したことのない専門外の競技を担当している教職員が約70%を占めている。そのため部活動の顧問については、約75%の教職員が「顧問はしたくない」「どちらかといえば、顧問はしたくない」と回答していることや自由記述の内容等から部活指導を負担だと感じている教職員が大変多いことが分かる。

次に、学校教育に部活動は必要かという問いについては、「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」という回答が約40%、「必要だと思わない」「どちらかという必要だと思わない」という回答が約44%、「わからない」が約16%と回答が分かれている。部活動が必要だと感じている教職員は、生徒の成長や居場所作りなど、これまで部活動が学校教育の中で果たしてきた教育的意義を強く感じている傾向にある。教職員にとって部活指導は様々な点から負担が大きい、その分教育的意義も高いことから、学校教育に部活動が必要かという点においては、回答が分かれたと推測される。

部活動の地域移行については、約72%の教職員が賛成をしており、教職員の負担軽減に向けて、大きな期待が寄せられている。地域連携の一貫で部活動指導員等の地域指導者を配置している部活動の顧問からは、指導方針や連絡・調整等において、地域指導者との連携体制に課題を抱えているという回答があった。

(4) 小学校教職員の部活動に関する意識

休日の部活動が地域に移行される方針が出ていることについて、「知っている」「少しは聞いたことがある」と86%の教職員が回答している。小学校の教職員の中でも部活動の地域移行について認識されている方が多かった。部活動の地域移行の際には、野球やバドミントンの指導が可能な教職員が、少数ではあるものの地域の指導者として活動を希望している。

(5) 中学校保護者の部活動に関する意識

中学校保護者の部活動の満足度については、「十分満足している」「満足している」と約60%が回答をしている。友人関係が良好なことや指導者の指導力に満足していることが主な理由として挙げられる。また、部活動の活動時間は適切であるかという問いについては、「適切だ」と約50%の保護者が回答している。その一方で、「少ない」「やや少ない」と約40%の保護者が回答している。部活動に満足できないと回答している保護者からは、活動時間に関する回答が多く見られた。

部活動の地域移行については、53%の保護者が「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答している。子どもたちのスポーツ・文化活動環境が整備できることや教職員の負担軽減につながるなど肯定的な回答が多く寄せられた。しかし、子どもたちの活動場所や送迎に関する意見も多く、活動場所への送迎は、日常生活の中で負担感が強いということが保護者の回答から強く感じられ

た。また、約 30%の保護者が「分からない」と回答している。地域移行後の活動の詳細が分からないため判断がつかないと感じる保護者が多かったと推察できる。

地域指導者による部活指導については、約 80%の保護者が「賛成」「どちらかといえば賛成」と肯定的な傾向が見られた。専門の指導者による技術指導に期待が寄せられる一方で、指導方法や子どもたち同士のトラブルへの対応などに不安を感じている保護者が多く見られる。